

## 創造的な仕事

現在の職場では、地方紙と全国紙ほぼ全て読むことができる。

先日、S新聞に「国際学力調査から見えるもの」というコラムがでていた。

今回の「国際的な学習到達度調査（PISA）」は、コンピュータ画面を使って出題・回答する形式をとったようだ。読解力低下が話題になったが、コンピュータの操作に慣れていないために読み取りに手間取った可能性があるとの指摘もあった。

コラムの内容に戻るが、筆者は、読解力低下について2点の要因を示した。

1つは日本の国語教育の問題であり、もう1つは学校におけるICT利用の問題であると。

学校設置者も学校にICT機器の充実に税金を投入してきているため、学校にコンピュータ等が導入されているが、筆者が言うには学校にはホコリをかぶっているコンピュータが存在する。

先生方は、コンピュータを活用した授業に有効性を感じているが、多忙で準備等に余裕がなく、結局、機器を活用しない授業に流れてしまうと・・・。

そして、先生方がICT機器を活用する様々なアイディアを出して授業に活かしたいのだが、そのゆとりがない。本来創造的な仕事をするはずの教員がそれをできずにいることで、結局知識詰め込みの授業になってしまうということである。

現在の学力水準は教員の熱意で成り立っているが、教職はブラックであるといううわさが立てば、創造性豊かで教職に意欲ある若者の教員志願者が減っていくという。

先生方の多忙が解消されると、ICT機器（コンピュータ等）を活用した授業が可能になり、児童生徒の読解力が向上するという論か？！

ではどうすればよいか。

現在の教員の仕事量は多く、そう簡単に多忙は解消できないかもしれないが、なにかよい策があるかもしれない。

書類1枚つくるときでも、上司に点検してもらえば必ず修正が入るので、7～8割程度の仕事ですすめて相談し、修正すればよいのではないかな。もちろん、いい加減な仕事を勧めているのではない。

また、カレンダーを活用して見通しを持って早めの対応をし、仕事を簡素に、精選し、他人に助けてもらうことも必要であろう。

そして、もし、少しゆとりが出たら、本を読み、多様な情報を収集し、いろいろ思索する時間に使ってほしい。そして、自分が楽しいと思う授業を児童生徒にしてあげてほしいものです。

教員は創造的な仕事である。毎回授業を創ることができる仕事である。

このことで、児童生徒が授業を楽しく思い、勉強に意欲が出たら素晴らしいことである。まさに人づくり、創造である。

解が見いだせない困難だらけの課題であるが、みんなで協力し、知恵を出し合いがんばりましょう。